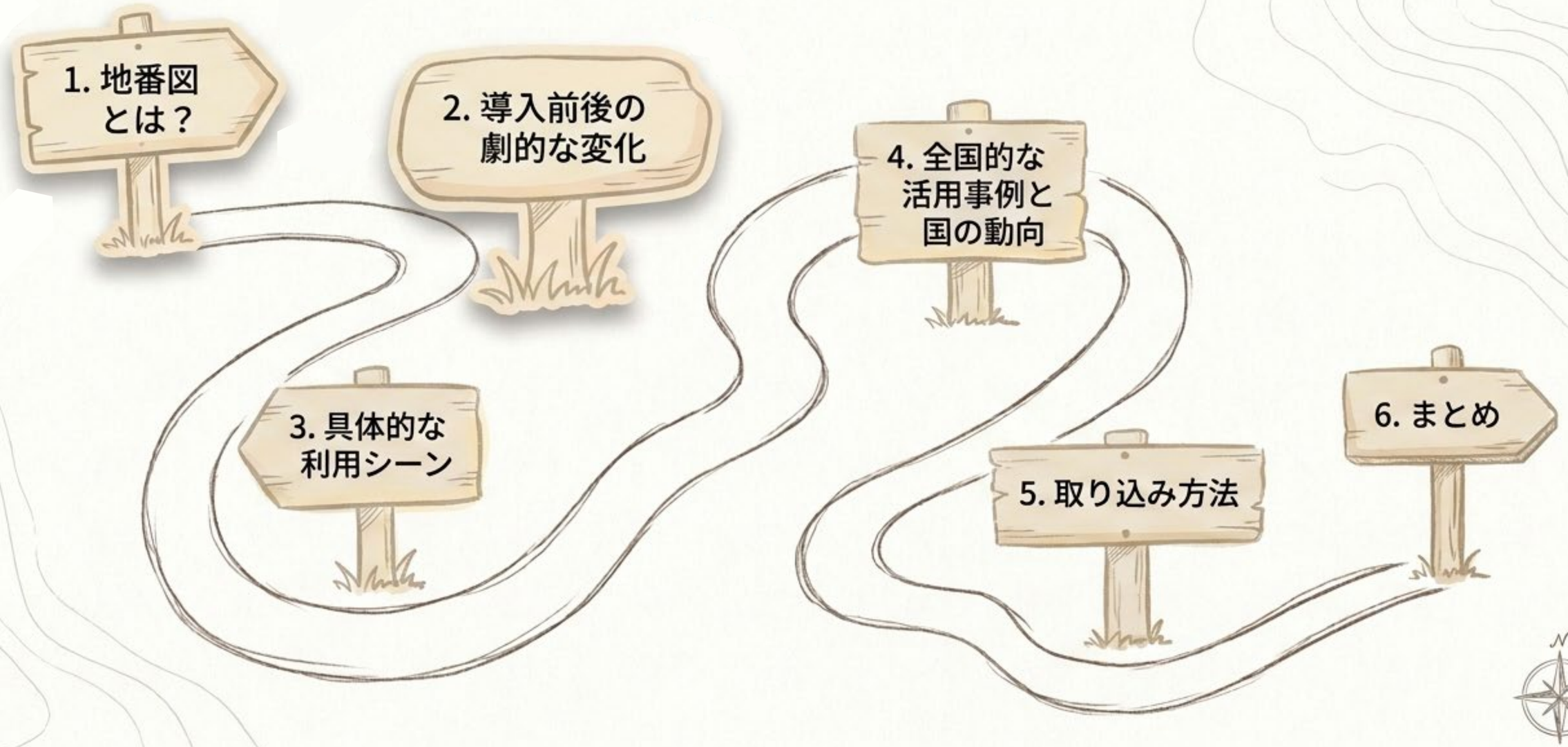
もっと使おう県域統合型GIS 地番図編

公益財団法人岐阜県建設研究センター
岐阜県ふるさと地理情報センター 松木



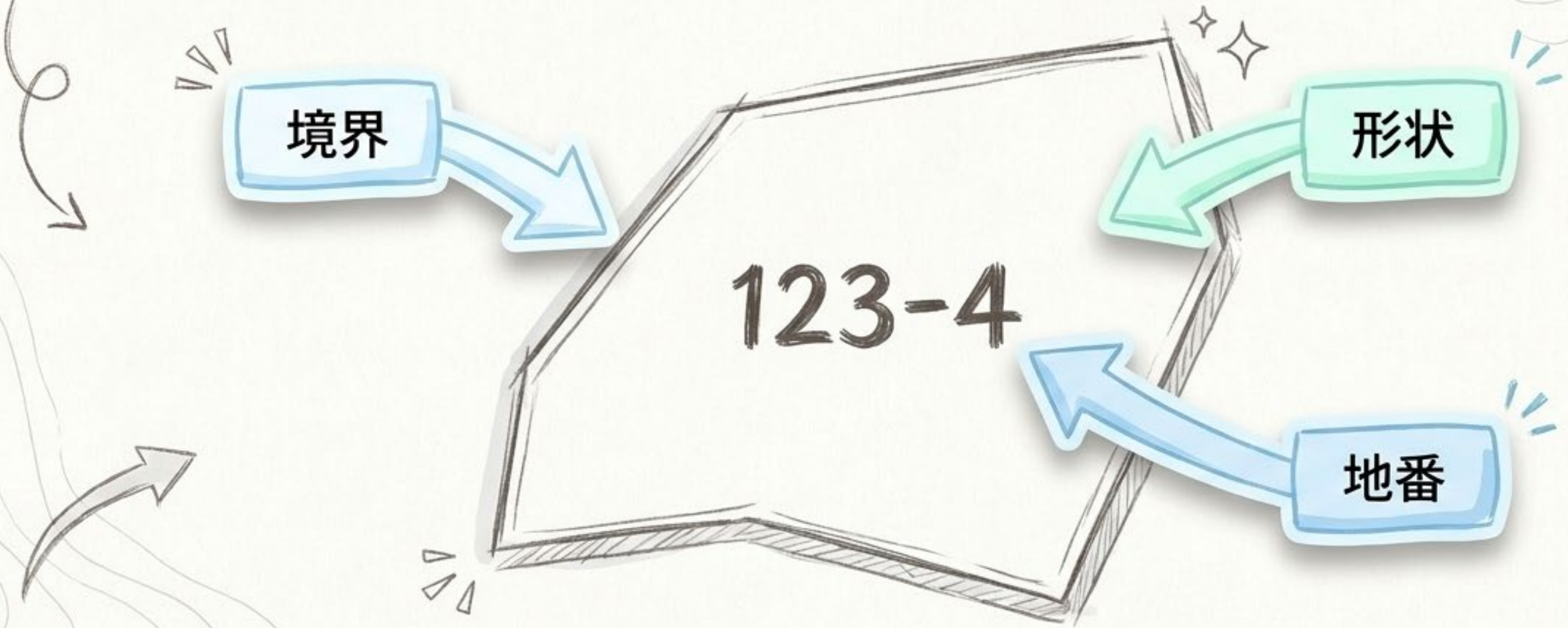
【全体系】本日の目次


1. 地番図とは？
2. 導入前後の劇的な変化
3. 具体的な利用シーン
4. 全国的な活用事例と国の動向
5. 取り込み方法
6. まとめ

1. 地番図とは

【① 地番図とは？】地番図の定義と役割

土地の一筆（区画）ごとに「形状・境界・地番」を記した地図。
法務局の公図や固定資産地番図がベースとなります。



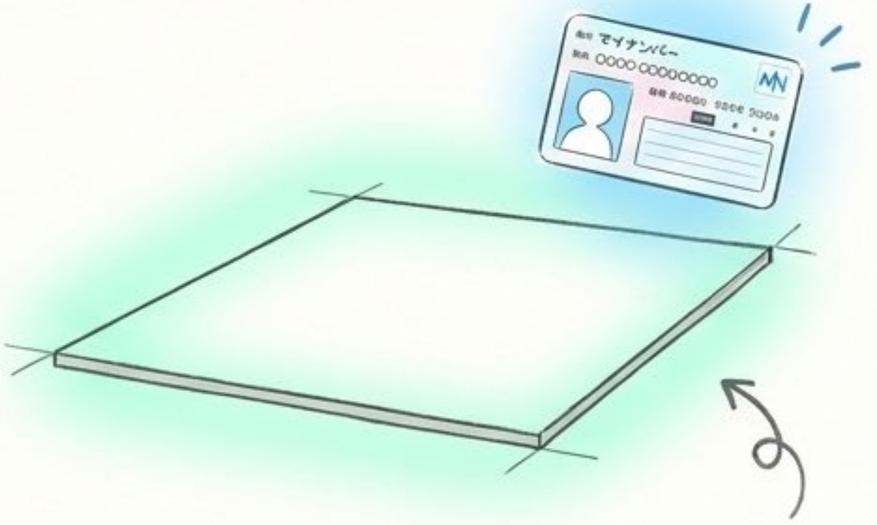
【① 地番図とは？】 住所と地番の違い（ここが違う！）

住所



建物の場所 / 郵便・配送用

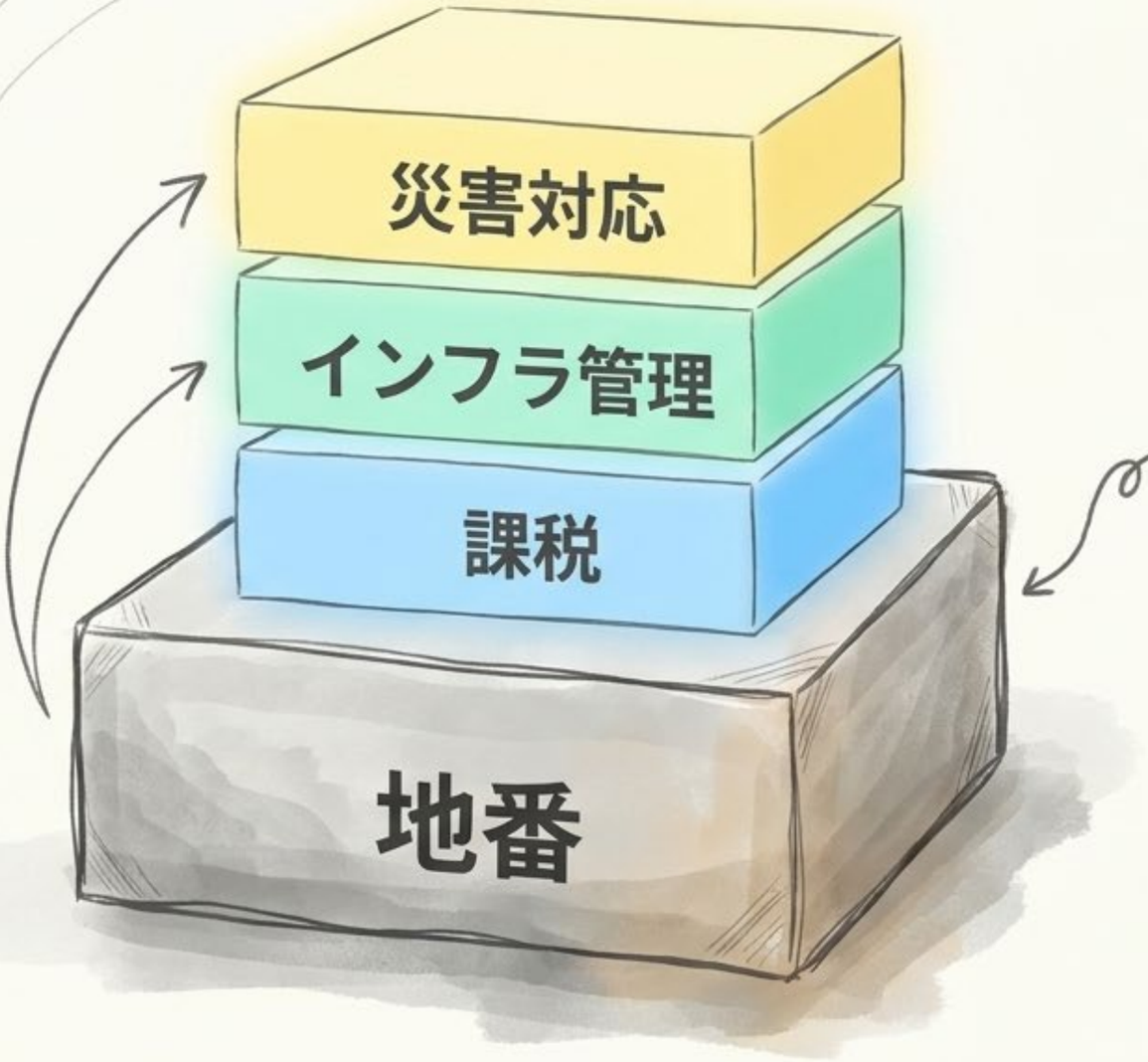
地番



土地のマイナンバー / 登記・課税用

住所は「建物」の場所を示すもの。地番は「土地」そのものを特定する固有の番号です。

【① 地番図とは？】業務の基準としての「地番」

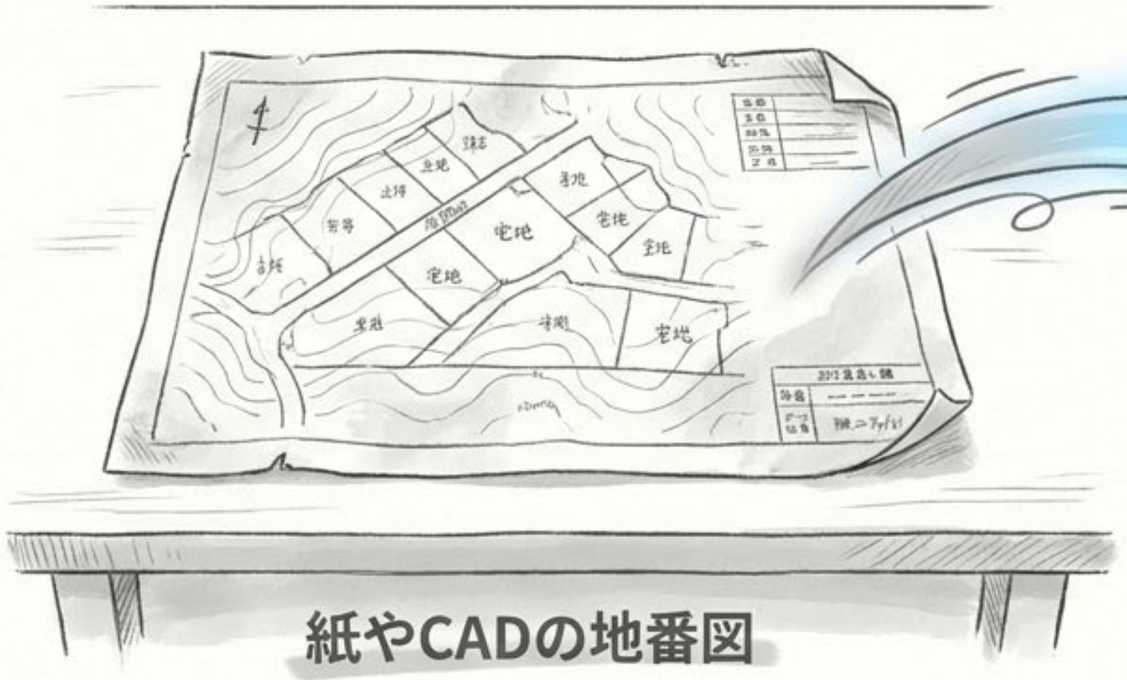


建物を建て替えても、
土地はそこに残り続けます。

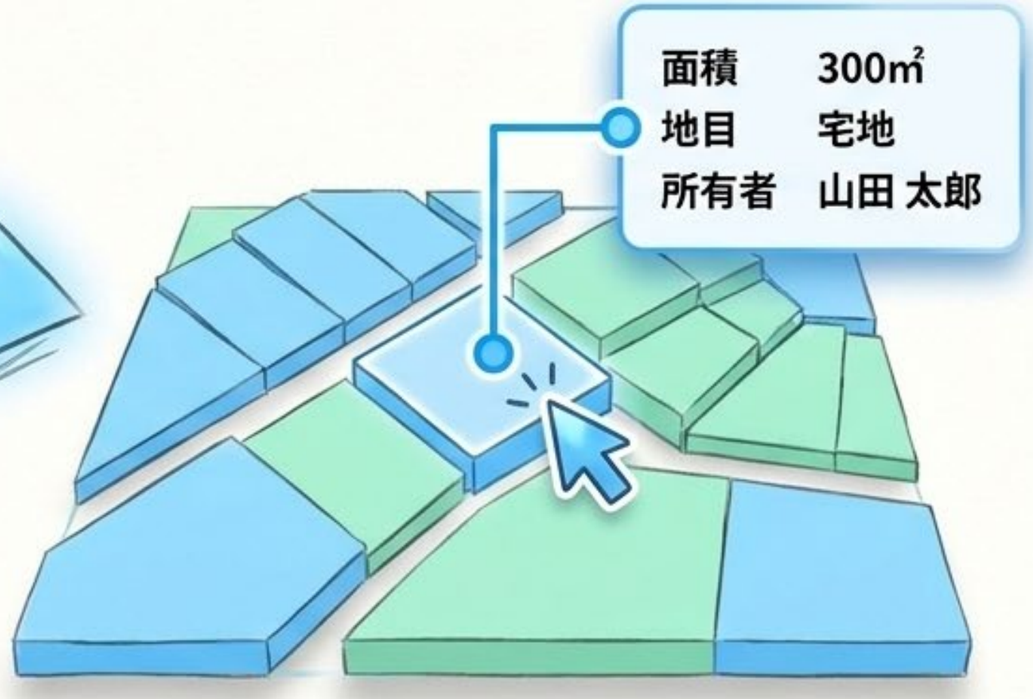
行政や企業のあらゆる活動・
データ管理の土台となるのが
「地番」です。

【① 地番図とは？】「ただの図面」から「位置情報データ」へ

紙やCADの地番図



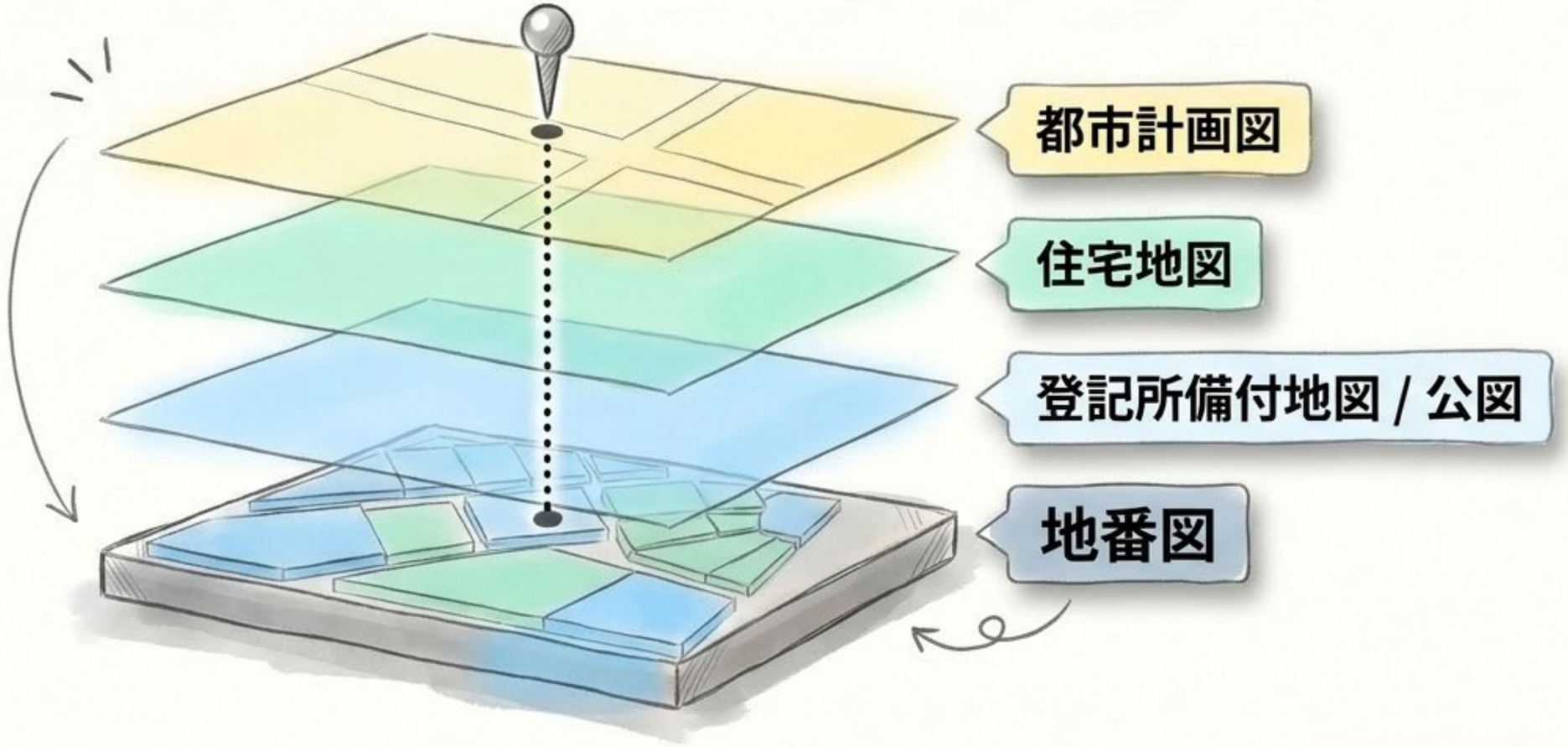
紙やCADの地番図



GISの地番図（位置情報データ）

紙やCADの地番図を GIS に取り込むと、クリックひとつで
様々な属性情報が紐付く「スマートデータ」に劇的に進化します。

【① 地番図とは？】 地番図と組み合わせて使う地図たち



単体ではなく、GIS上で様々な地図（レイヤー）と
「重ね合わせる」ことで、地番図は真価を発揮します。

2.　導入前後の劇的変化

【② Before/After】1. 土地の検索・照合



【Before】分厚い紙ファイルを
めくって20分探す



【After】検索窓に地番を入れるだけで
「3秒」で瞬時にジャンプ。
圧倒的なタイパ向上を実現。

【② Before/After】2. 現地調査と報告書作成

BEFORE



【Before】紙図面で現場に迷い、
帰庁後にデジカメ写真と手入力で紐付け

AFTER



【After】タブレットのGPSで
現在地を即特定。
現地で直接写真をデータに紐付け完了。

【② Before/After】3. 規制区域の照合・判定

BEFORE



【Before】縮尺の違う複数の紙図面を
目視で見比べる（ミスのリスク大）

AFTER

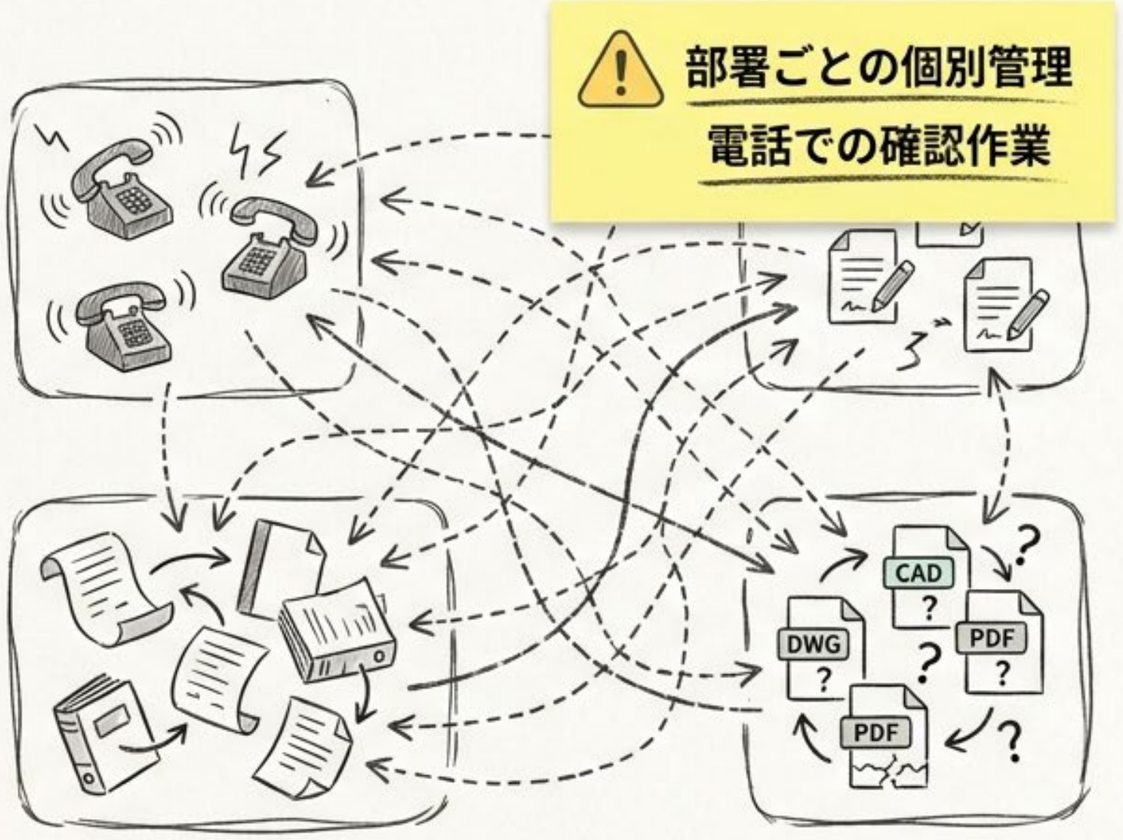


【After】画面上でハザードや都市計画を
ピタッと重ね合わせ、
ワンクリックで正確に一括判定。

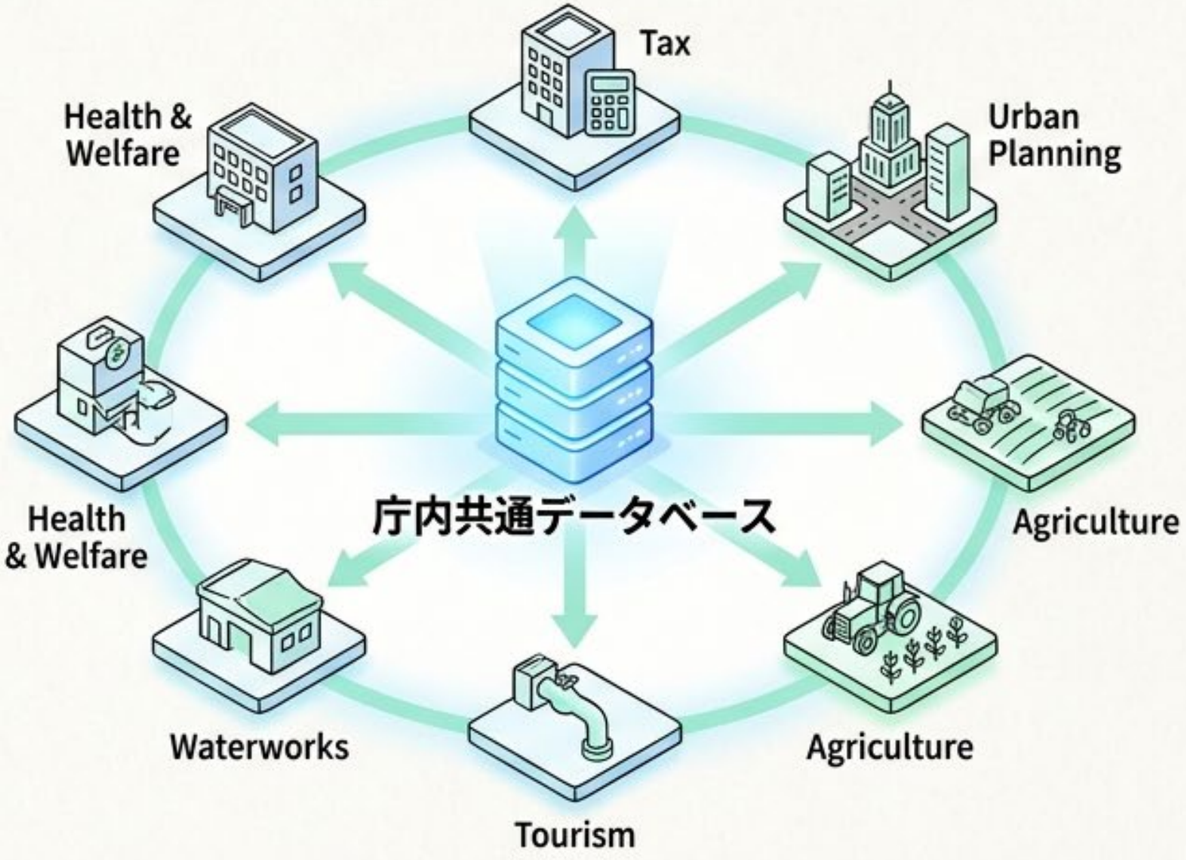
【② Before/After】4. データ共有と重複管理

電話や図面の貸し借りがゼロに。一元管理によるリアルタイム共有

Before - The Spaghetti Model



After - The Hub-and-Spoke Model



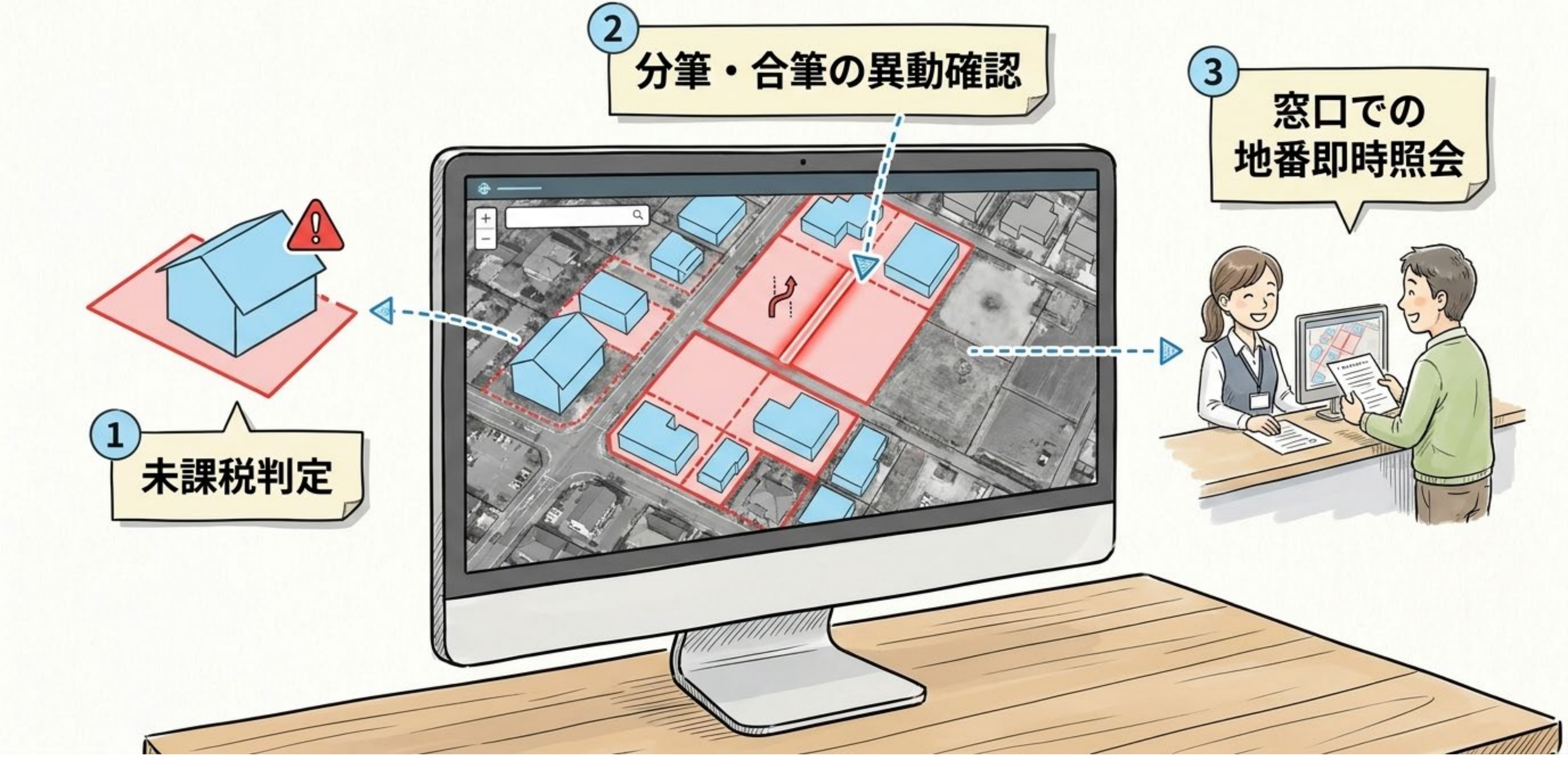
【② Before/After】GIS導入がもたらす定量的インパクト



個人の『タイパ向上』から、組織全体の『コスト削減』へ

3. 具体的な利用シーン

【③ 利用シーン】課税・資産管理での活用

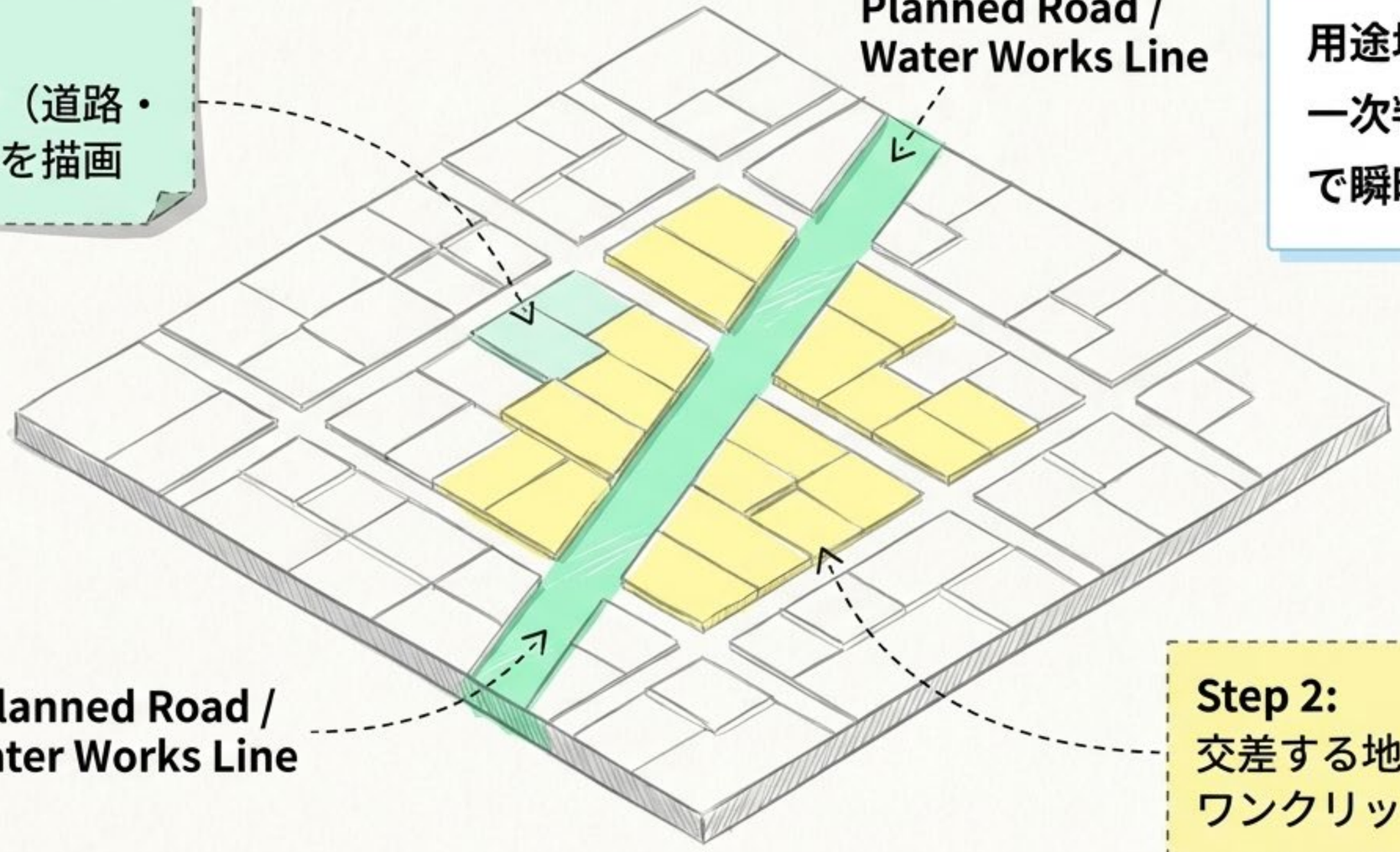


【③ 利用シーン】現場パトロール（農地・空き家等）



【③ 利用シーン】都市計画審査＆工事影響エリア特定

Step 1:
対象エリア（道路・インフラ）を描画



用途地域・規制の一次判定も画面上で瞬時に完了

Step 2:
交差する地番・所有者をワンクリックで一括抽出

【③ 利用シーン】災害リスク把握と罹災対応



事前のリスク面把握

データ統合による危険エリアの可視化



被災地番特定と罹災証明発行の迅速化

被災状況登録から証明書発行までをデジタル完結

【③ 利用シーン】市民・事業者のセルフサービス化

役所に行かなくても、24時間いつでも検索・閲覧・印刷





事業者（不動産・建設等）

- 自宅やオフィスから都市計画情報をPDF印刷

市民

- スマホで手軽に地域の情報を確認

【③ 利用シーン】利用者別の提供価値一覧



	課題	GISによる解決	究極の価値
職員	複雑な地図確認	現場DXと統合DB	大幅な時間短縮と 窓口混雑緩和
市民	平日昼間の来庁	Webでの セルフサービス化	役所に行かなくて済む 圧倒的利便性
事業者	窓口開庁時間 待ちの調査	24時間いつでも 地番・都市計画確認	ビジネススピードの 劇的向上

4. 全国的な活用事例と国の動向

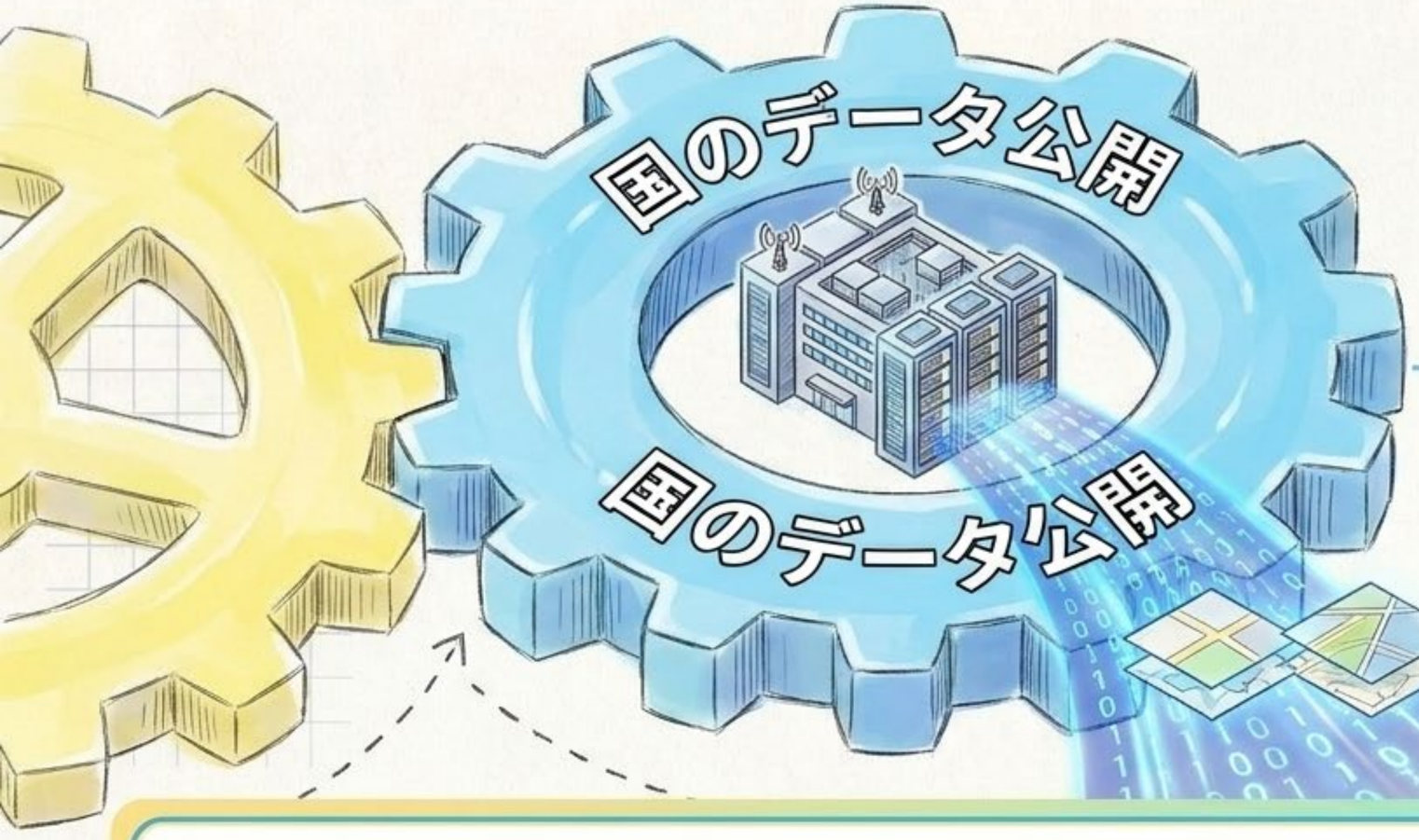
【④ 事例と国の動向】なぜ今、地番図なのか？（本音の経緯）



現場の強い要望

大掛かりな『構想』からではなく、
現場や窓口からの圧倒的なSOSが出発点

【④ 事例と国の動向】国の大きな追い風：公図の無償公開



法務省による
全国約2億筆の
公図データ無償公開

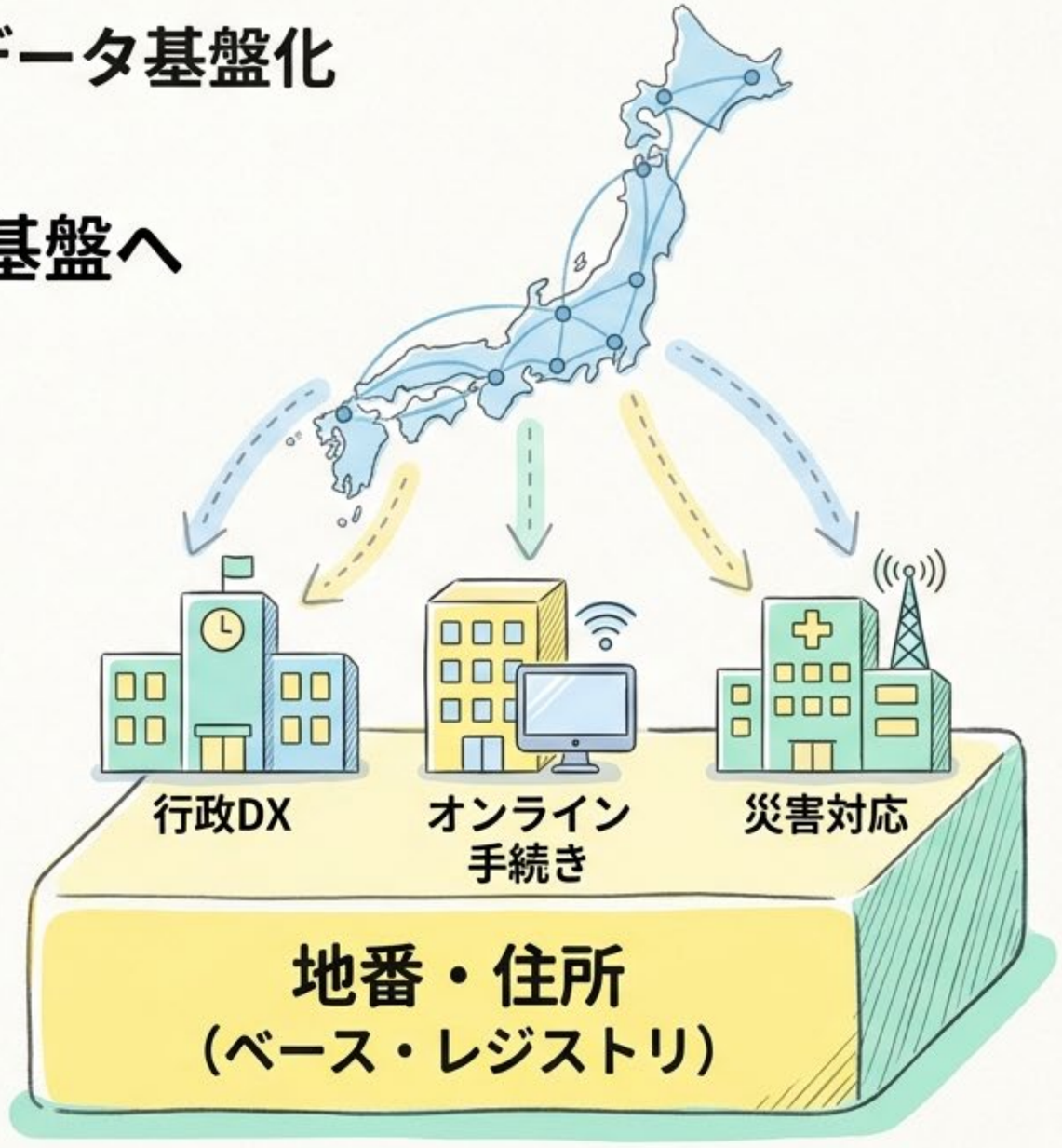
現場の需要 × 国の無償データ = 新しくデータを作らなくても、
一括取得で今すぐ始められる絶好のタイミング！

【④ 事例と国の動向】国策としてのデータ基盤化

社会のデジタル化を推進する共通基盤へ

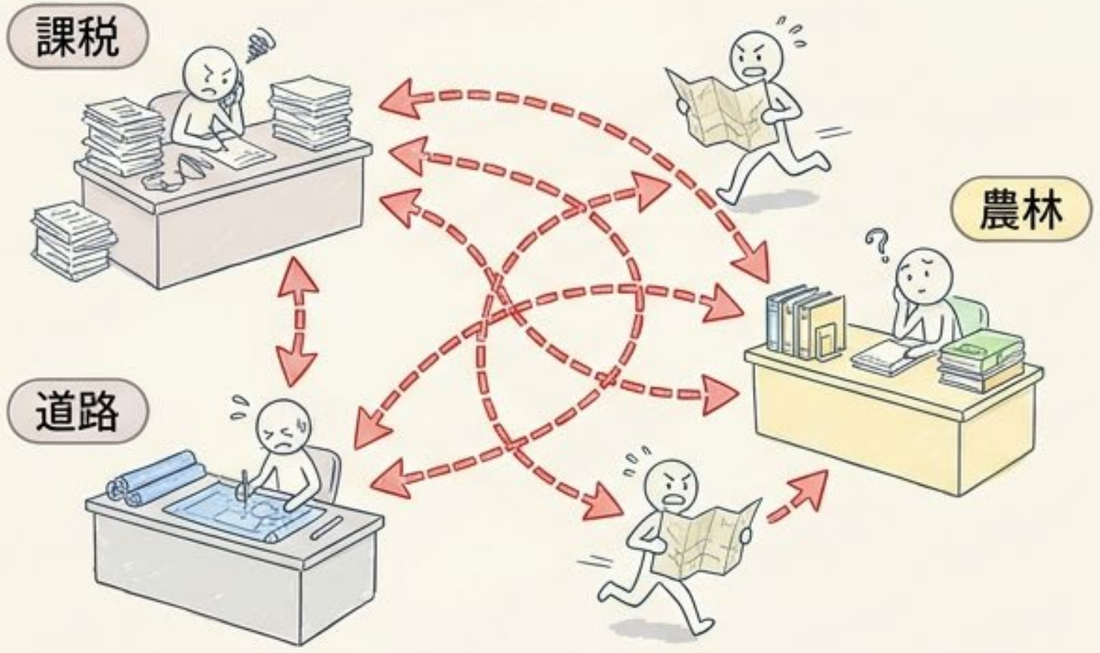
デジタル庁が進める社会共通データ基盤構想

- 公的な台帳データ（住所・地番・法人等）の標準化
- 行政手続きのオンライン化の基準
- 災害時の迅速な情報共有を可能にする、行政DXの標準インフラ



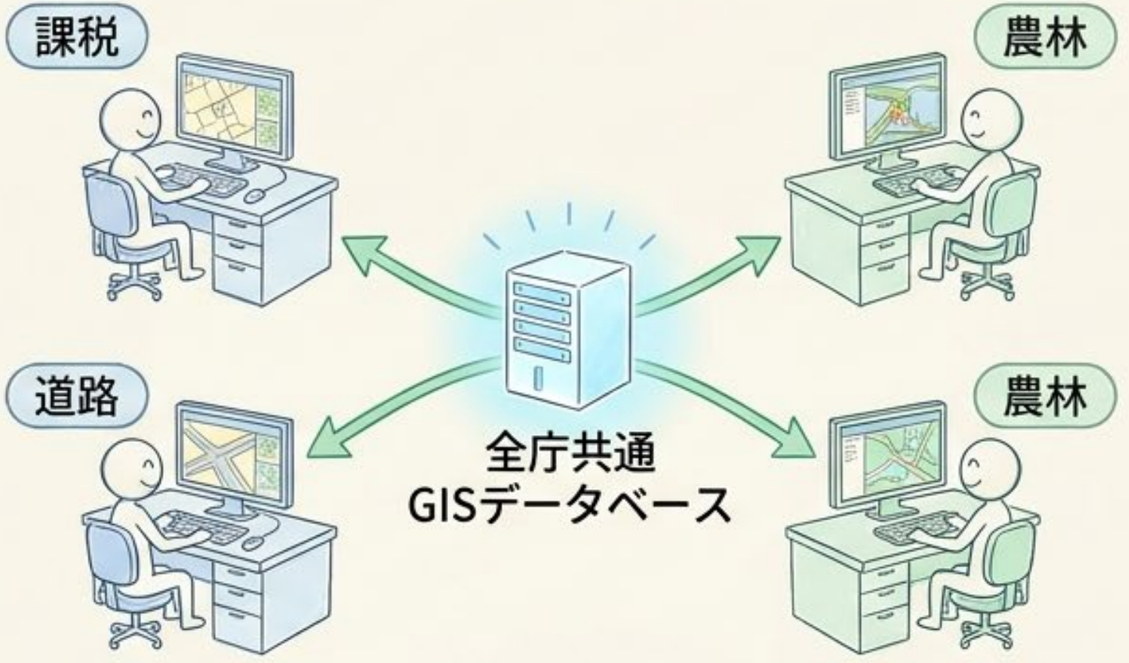
【④ 事例と国の動向】活用事例１：全庁統合型GIS（部署横断の業務集約）

【課題 / Before】



部署ごとの個別管理。紙図面の重複購入、
他部署への電話確認、図面の貸し借りが日常化。

【解決策 / After】



課税部門の地番図をベースマップとして
庁内ネットワークで全庁共有。

【統合による効果】

【都市計画・建設】
用途地域・建築確認履歴を
重ね合わせ、開発審査を迅速化。

【道路・上下水道】
工事影響範囲内の
地番（所有者）を一括抽出。

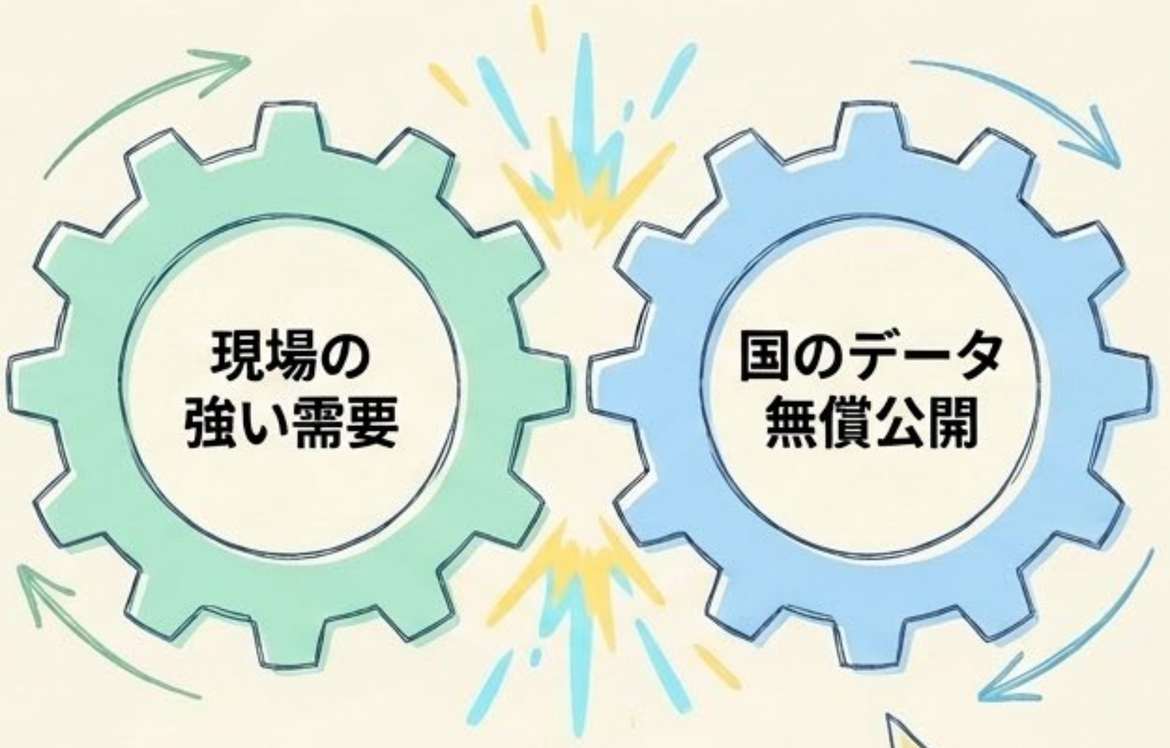
【農林・環境】
空き家・耕作放棄地データを
地番に紐付け一元管理。

【④ 事例と国の動向】活用事例２：公開型Web GIS & 今がチャンス！

【活用事例２：住民・事業者サービスの自動化】

- セルフサービス化：わが街ガイド等の公開型GISにより、不動産業者は24時間いつでも用途地域を検索・印刷。住民は自宅でハザードリスクを確認。
- 効果：窓口への来庁者数・問い合わせが激減し、対応負担を劇的に軽減。





【スモールスタートに絶好のタイミング】

法務省による「登記所備付地図（公図データ）」のオープンデータ化（G空間情報センターにて無償公開）。

結論：「現場の需要」×「国の無償データ整備」＝データ作成コストゼロで、今すぐ低コストで始められる！

5. 県域統合型への取り込み方法

［⑤ 取り込み方法］専門知識・特別な測量は不要！

「GISへの登録は難しそう…」

【誤解】特別な測量技術や、高度なITスキルが必要なのでは？



「ドラッグ＆ドロップだけ！？」

【事実】お手元にあるデータ（Shapeファイル、CSV）や、国からダウンロードした公図データを画面に載せるだけ。



直感的な操作で、「ただの図面」が一瞬で
「位置情報を持ったスマートデータ」に変わります。

[⑤取り込み方法（県域統合型GISでの機能と利用事例）]

実践！簡単3ステップ登録手順





【ファイル準備】

必要なShape、CSV、公図データを用意します。



「簡単操作で座標系も一発設定」

【ドラッグ＆ドロップ】

システムへファイルをドラッグ＆ドロップし、測地系・座標系を指定します。



【設定・完了】

取り込む属性項目や新規レイヤー名を入力し、公開範囲（自部署/庁内/公開）を設定して完了です。

【⑤取り込み方法（県域統合型GISでの機能と利用事例）】

統合型GISでは、地番データを活用して各自治体の希望に沿った利用環境を構築できます。

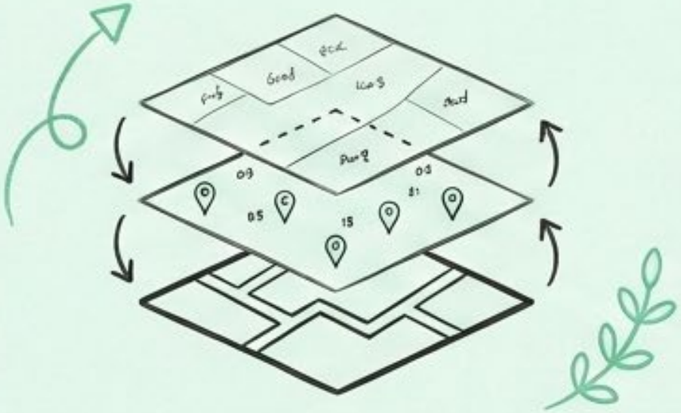
地番辞書の利用



地番辞書の利用

地番からの迅速な検索、ポイント表示、境界線の非表示設定など、柔軟な閲覧が可能です。

地番図レイヤの作成



地番図レイヤの作成

境界線レイヤーと地番ポイントレイヤーを個別に作成し、用途に応じた重ね合わせを行います。

公開範囲の設定

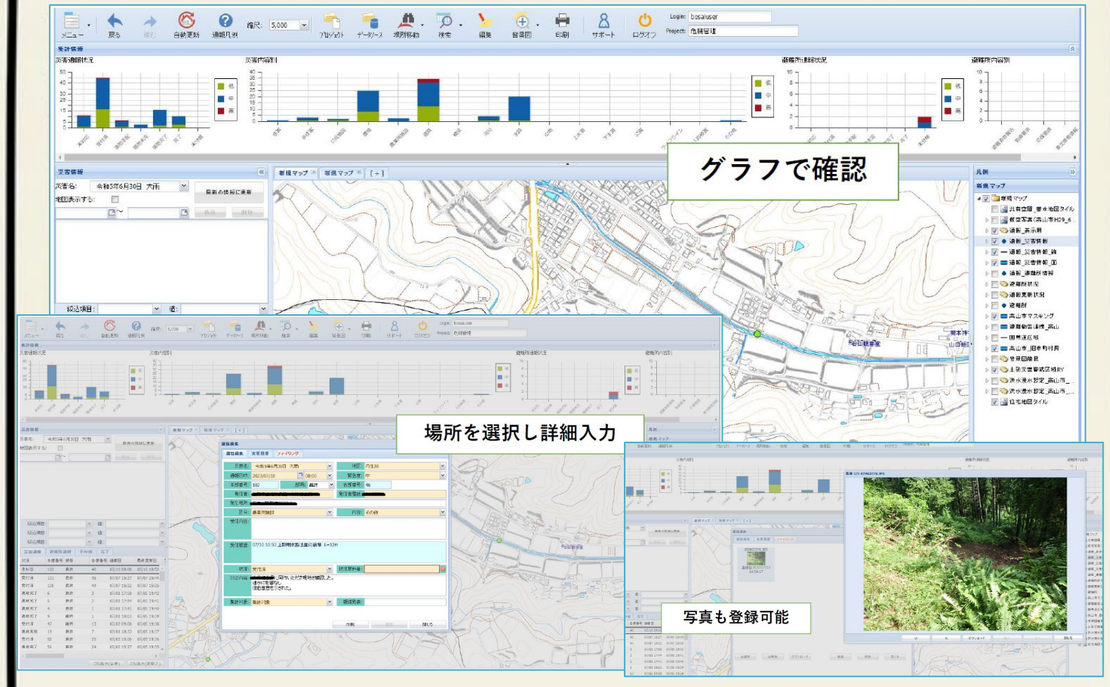


公開範囲の設定

データの性質に合わせて、「自部署のみ」「自庁内全体」「住民への一般公開」など、権限を自由に選択・設定します。

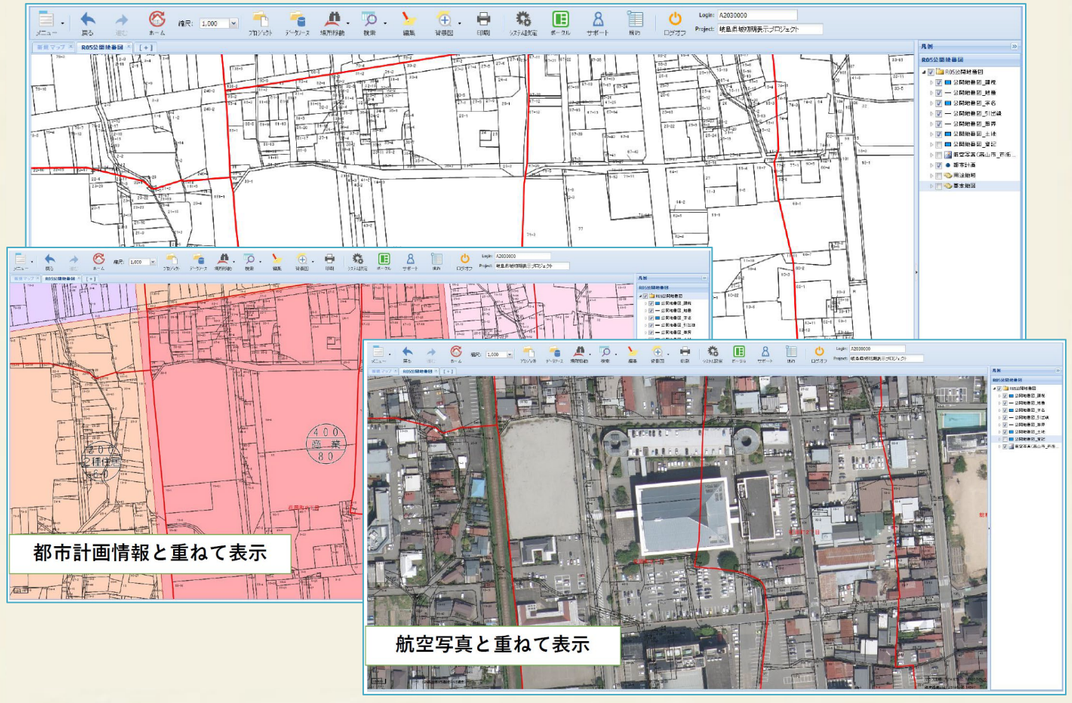
【⑤取り込み方法（県域統合型GISでの機能と利用事例）】
実際の県内活用事例：高山市における利活用

災害情報集約システム



被害通報や避難所の状況を地図上にリアルタイムで可視化します。場所ごとの詳細な属性入力や現場写真の登録により、災害時の情報管理を高度化します。

登録情報システム

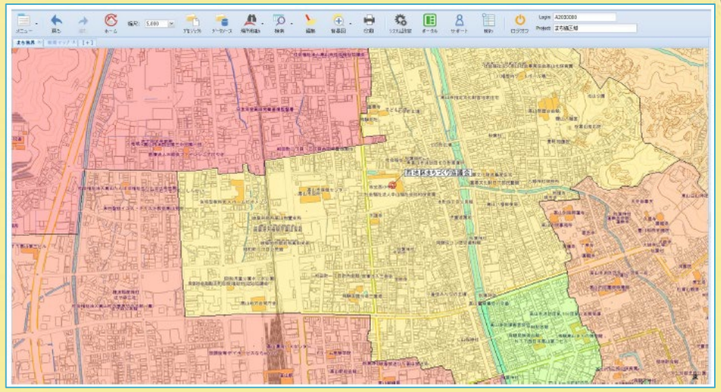


法務局の公開地番図をGISに取り込みます。標準地図や都市計画図、航空写真と重ね合わせることで、所有者、地目、地積などの最新情報を即座に画面上で確認できます。

[⑤取り込み方法（県域統合型GISでの機能と利用事例）]

高山市での多層的な活用

区域を登録する

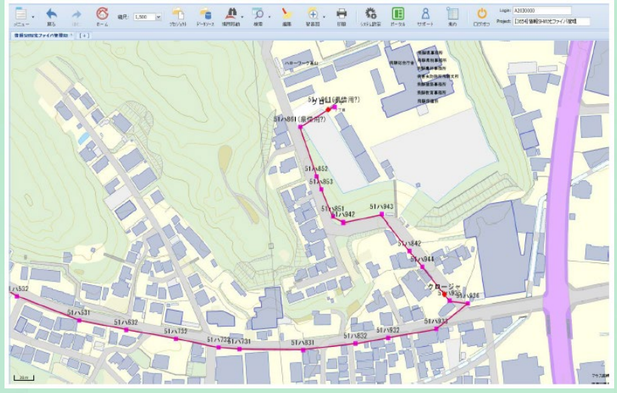


- 選挙投票区マップ
- 町内会・まちづくり協議会区域図

100件以上の業務活用

地番・位置データを基盤とし、
全庁で多角的な展開を
実施しています。

路線・スポットを登録する



- 情報SHW光ファイバ管理マップ
- 小・中学校通学路線図
- 町内会防犯灯設置図



6. まとめ

【⑥まとめ】地番図GISがもたらす3つの本質的価値

持続可能な自治体運営

[柱1: タイパ向上・プロセス極小化]



- 「図面を探す時間」を数十分から数秒へ短縮。
- 手作業・非付加価値時間を全廃し、意思決定のリードタイムを最小化。

[柱2: 現場DX・リアルタイム連携]



- 現地調査のGPS連動により、現場での確認・撮影・登録がその場で完結。
- 現場とバックオフィスのタイムラグをゼロに。

[柱3: TCO削減 & 窓口DX]



- 全庁共通基盤化により、図面の重複購入や二重管理コスト（TCO）を削減。
- 公開型GISによるセルフサービス化で、窓口への来庁・問い合わせ件数自体を適正化。

【⑥ まとめ】明日から始める推進ロードマップ

高額なシステム開発や大規模な初期投資は不要。段階的な展開が成功の鍵です。



[Phase 1: 1ファイルの読込]

まずは担当者レベルで、手元のデータや国の無償データをGIS上にドラッグ＆ドロップしてみる。



[Phase 2: 1業務でのパイロット運用]

「空き家調査」や「農地確認」など、特定の業務に絞ってタブレットや重ね合わせ機能を実証。



[Phase 3: 全庁共有・重ね合わせ展開]

パイロット運用の成果をもとに、他部署のデータ（ハザード、都市計画等）と連携し、全庁的なインフラへ昇華。



［⑥ まとめ］今すぐ一歩を踏み出しましょう！

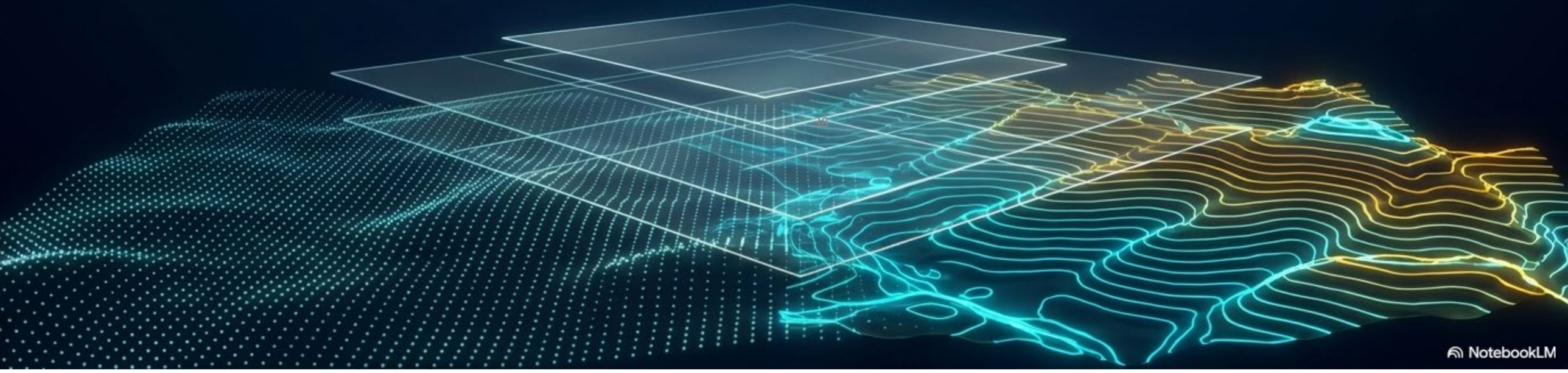


【お問い合わせ先】

公益財団法人岐阜県建設研究センター
岐阜県ふるさと地理情報センター
担当：松木

※実際の登録や運用に関するご相談も、お気軽にご連絡ください。

ふるさと地理情報センターからのご案内



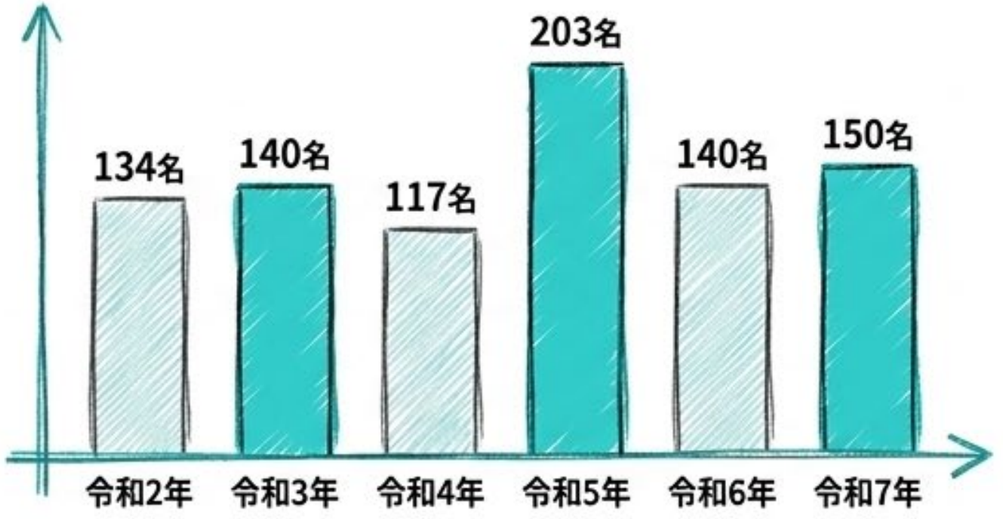
NotebookLM

ふるさと地理情報センター GIS研修のご案内

豊富な実績と、自治体のニーズに応える柔軟な研修プログラム

累計受講者数 約900名

（令和2年～7年の過去6年間で、計884名が受講）



毎年、多くの自治体職員の皆様に受講いただき、実務に直結する GIS スキルの向上をサポートしています。

- ✓【GIS研修（基本）】基礎的なGIS操作を習得（過去6年で23回実施）
- ✓【GIS研修（応用）】より高度な分析と活用法（過去6年で6回実施）
- ✓【GIS研修（管理）】システム管理者向けの専門技術（過去1回実施）

大好評！
カスタマイズ可能

【GIS研修（出前）】（過去6年で22回実施、近年急増中！）

県域統合型GIS操作研修に加え、各自治体の具体的な業務課題やニーズに合わせて研修内容を柔軟に調整いたします。

（例）現場での活用に向けた「モバイルGIS」等の説明や実践を追加可能。



写真：出前研修の様子

「貴庁の業務課題解決に向けたオーダーメイド研修をぜひご活用ください。詳細は当センターまでお気軽にご相談を。」

NotebookLM